

新潟脳神経研究会第318回例会

日時：令和2年3月10日（火）18:00～19:00

場所：脳研究所 1 F 検討会室

1) ALS原因遺伝子 *TARDBP* の選択的スプライシングとDNAメチル化

(20分)

小池 佑佳 (新潟大・脳研・神経内科学分野)

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の原因遺伝子 *TARDBP* の変異が集積するエクソンの選択的スプライシングは *TARDBP* 発現量の制御に重要である。今回、この選択的スプライシングへのDNAメチル化の影響を明らかにし、脳領域、加齢および孤発性ALSとの関連を議論する。

2) 神経成長における成長関連タンパク質-43kDa (GAP-43) のリン酸化の解析

(20分)

岡田 正康 (新潟大・脳研・脳神経外科学分野)

げっ歯類の成長円錐においてリン酸化プロテーム解析から最もリン酸化の頻度が高い分子として神経成長関連タンパク質-43kDa (GAP-43) に着目した。網羅的な解析から焦点を絞り解析した方法論とともに、げっ歯類の結果からヒトを対象とする臨床応用について現状を報告する。

(裏面に続く)

3) サイトカイン投与統合失調症モデルにおける ドパミン機能異常

(20分)

難波 寿明 (新潟大・脳研・分子神経生物学分野)

これまでに、新生仔期に上皮成長因子を投与したげっ歯類統合失調症モデルのドパミン神経機能を解析し、その活動性やチャネル機能の異常が明らかになってきた。本発表では、この機能異常が関与すると考えられる疾患発症の成熟依存性や聴覚応答異常について議論したい。

どうぞ奮ってご参加ください。

(担当：分子神経疾患資源解析学分野)
新潟大学脳研究所長：小野寺 理